

岡山県の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの調査概要  
(平成27年1月16日実施)

平成27年1月16日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 発生農場の周辺環境等

- ① 発生農場は、平野部の小高い丘の上に位置し、農場内外には数多くのため池があり、最も近いものは発生鶏舎から約10mの距離に位置していた。調査時に、農場内のため池のいくつかでは、数羽から十数羽のカモ類が確認され、農場外のため池の中には、調査時に100羽以上のカモ類が確認される池もあった。
- ② 発生農場は、合計9棟（高床式ウインドレス鶏舎5棟、高床式開放鶏舎4棟）の鶏舎を有している。農場の事務所と鶏舎間には一般市道があり、鶏舎で作業を行う場合、これらの市道を通過する必要がある。発生鶏舎は農場の事務所から最も離れた位置（直線距離で約400m）にある2棟の高床式ウインドレス鶏舎のうちの1つであった。

2 管理者及び従業員

- ① 発生農場は、農場主を含む10名の作業員により管理されており、最近、海外への渡航歴はない。
- ② 農場主によると、農場主を含む従業員が農場へ出入りする際には、事務所で作業用の衣服及び長靴に交換するとともに、踏込消毒槽を用いた長靴の消毒及び手指消毒を実施している。
- ③ 飼料会社等の外部の者が訪問した際には、踏込消毒の後に事務所で訪問者の記録を記入し、手指消毒を実施した後に鶏舎敷地内へ入る。

3 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横に飼料タンクが設置されているが、タンク上部に蓋がされており、野鳥の接触の可能性や、糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 給与水は、水道水を給水ラインに直結させており、鶏舎内に配水されている。給与水のラインは外部との接触はない状態であり、野鳥の接触の可能性や、糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 各鶏舎に出入りする際には、踏込消毒槽等による靴底消毒を実施した後に鶏舎内に入場している。
- ④ 車両が農場に出入りする際には、農場の事務所横で動力噴霧機による消毒が実施されている。
- ⑤ 農場主によると、消石灰を週に1回程度、鶏舎周辺を中心に散布している。
- ⑥ 農場主によると、鶏糞は約3ヶ月に1度、各鶏舎から搬出し、農場内の堆肥化施設において完熟させ、その後、鶏糞堆肥は周辺の農家等へ販売している。

4 野鳥・獣害対策

- ① 発生鶏舎は高床式ウインドレスの構造であり、自動の温度管理換気システムを採用している。外壁、壁面等には、野鳥が侵入できるような大きさの破損等は確認できなかったことから、小型野鳥の侵入できる可能性は低いと考えられた。
- ② 農場主によると、鶏舎内で野鳥を見かけたことはない。
- ③ 集卵ベルト周辺にはネズミ等の小型動物が鶏舎内に侵入する余地があり、防疫作業中に発生鶏舎内でネズミが確認された。
- ④ 農場主によると、鶏舎内でネズミが散見されることを認識しており、月に一度、ネズミ駆除専門業者に駆除を依頼していた。また、調査時に発生鶏舎内に殺鼠剤と思われる薬剤が設置されているのを確認した。

5 死亡鶏の取扱い

農場主によると、死亡鶏については鶏糞とともに混ぜ込み、農場内で発酵処理を実施している。